

白神自然学校一ツ森学校



■施設名	白神自然学校一ツ森学校
■旧学校名	旧一ツ森小学校
■所在地	青森県鰺ヶ沢町一ツ森町上禰 88-2
■開設主体	NPO法人白神自然学校一ツ森学校
■設立目的	自然学校として白神山地の自然を創造的に活用した自然体験の活動を実施し、ゆとり教育・環境教育のリーダーを養成し、地元の地域経済振興のために幅広い森林保全作業も行い、国土の健全な発展に寄与することを目的とする
■運営主体	NPO法人白神自然学校一ツ森学校 (町より土地・建物を借り受け)

【経緯】

1997年	白神山地にブナの苗木を植林する活動をスタート。団体名を「白神山地を守る会」と改称、白神ガイド養成講座、白神エコロジー体験ツアー等を実施する
2002年	町とのパートナー事業として「白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川」実行委員会をつくり、全国に呼びかけた第一回植樹祭を実施する(以後、毎年一回開催)
2003年	3月 一ツ森小学校閉校 4月 行政より当時二校が廃校になるので活用できないかという話しを受け、町よりの一ツ森小学校を借り受ける 10月 NPO法人白神自然学校一ツ森学校を設立し、自然学校を開校する
2006年	3月 白神自然学校首都圏倶楽部を発足
2011年	12月 仙台市青葉区に白神自然学校仙台事務所を開設

【事業(活動)概要】

■事業(活動)内容

- 白神山地の自然体験の実施(自然体験ツアー[青沼マタギ小屋宿泊/青沼と遺伝資源保存林散策/天狗岳トレッキングと十二湖青池周辺を歩く/赤石溪流線周辺でのきのこ狩り/マタギとスノーシューを履いて歩く雪山/鰺ヶ沢スキー場でスキーを滑り白神の雪山を歩く/春山の雪山歩き観察]、夏休み子ども木育体験ツアー、生産地訪問・ふるさとモニターツアー、北国の遊び体験)
- 白神山地の有効活用のための地元講師育成活動 ●白神山地エコロジー体験のプログラム開発
- 人材養成講座並びにガイド養成講座の実施 ●グリーン・ツーリズムの推進 ●自然教育のための木工製品の開発
- 自然公園のガイド及び環境の整備
- 森林の整備事業並びに広葉樹の育林事業(植樹祭「白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川」の開催)
- イベント等開催(第1回津軽半島環境サミット、白神物語-しらかみからのおくりもの写真展/仙台市)
- 農家レストランしらかみの営業
- 商品開発(白神の香プロジェクト事業ワークショップ、アロマオイル白神物語-白神の香り、くろもじ茶、しらかみ手作りクッキー)

■利用実績/2012年度

- 年間施設利用者数 1,862人(うち宿泊者数 147人)



自然体験ツアー



自然体験ツアー



木育体験ツアー



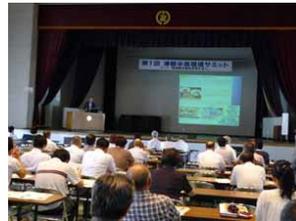
子どもたち宿泊体験



生産地訪問モニターツアー



白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川



第1回津軽半島環境サミット



しらかみからのおくりもの写真展/仙台市



しらかみグリーンカレー



白神御膳



白神の香プロジェクト事業

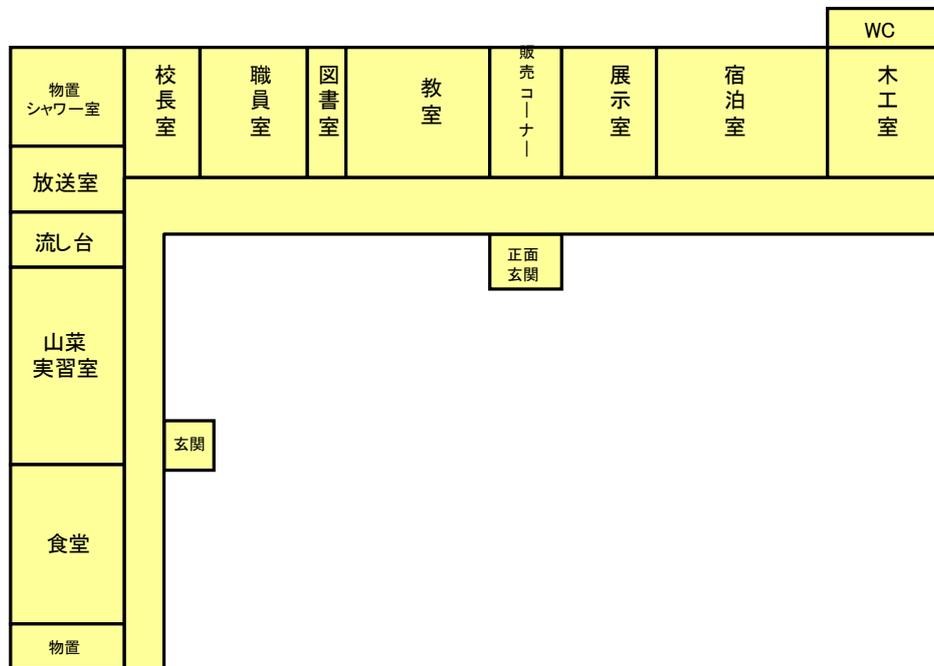


アロマオイル白神物語

白神自然学校一ツ森学校



見取り図(校舎)



[施設(校舎)木造平屋建て/931 m²] [整備改修:約 5,000 千円/NPO法人白神自然学校一ツ森学校]



廊下



農家レストランしらかみ



ブナ教室



図書室



山菜教室



木工室



宿泊室

NPO法人白神自然学校一ツ森校

2003年旧一ツ森小学校が廃校となり、今年で10年



鯺ヶ沢町の位置

鯺ヶ沢町立一ツ森小学校が平成15年3月末で廃校→平成15年4月20日から町から借り受けて、7月26日開校(NPO登記)

特定非営利活動法人白神自然学校一ツ森校



鯺ヶ沢町は日本海(青森県の西海岸)に面し、およそ東西22km、南北40kmに及び総面積は42.99km²で、県内で8番目の広さを有している。北は日本海に臨み、南はクマガイの生息地として知られる世界自然遺産の白神山を有し秋田県に隣接しています

- ・授業教室
- ・宿泊室
- ・木工室
- ・料理教室
- ・体育館

青森県西津軽郡鯺ヶ沢町大字一ツ森町字上禿88-2
一ツ森地区は平成15年50世帯→現在28世帯

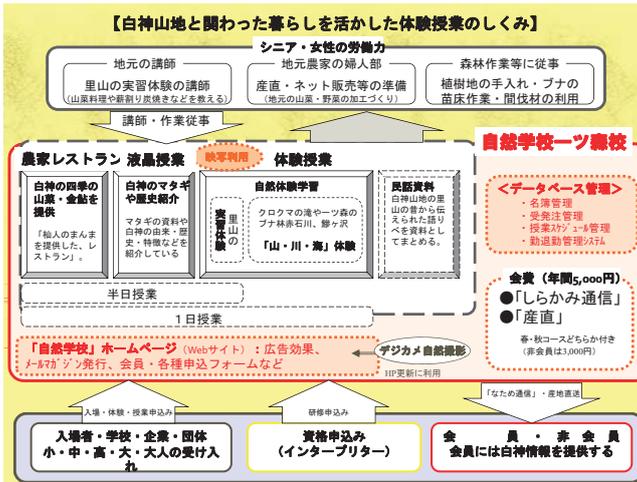
人口11,449人、65歳以上3,948人(34.5%)世帯戸数4,095戸



白神自然学校一ツ森校

自然学校





NPO法人白神自然学校一ツ森校

白神自然学校の考え方

一ツ森地区は、自然学校を中心とした「集落」「家族」と考えている。
 ・料理をつくる人(10名)・講師・ガイドする人(20名)・宿泊できる人(80名)

自然学校を訪れる人達は、都会が多いが、「地域」は単なる環境だが、一ツ森では……

①自然との関係や時間との関係
 ②家族や他人との関係性

これらから、技術や文化・伝統が生まれ、地域の組織ができることや、歴史も地域の関係性の中から生まれることを知ることができる。

都市部……地域にあえて属さない生き方も許容する
 田舎の地域に生きること……責任が増えること (人の誕生から死ぬまでの関係性がそこにはある。墓守人)

※自分と家族や仕事以外に、地域の保守管理、草刈り作業など、地域の環境も考えなくてはならない。(農業は1人ではできない等)
 いろいろな関係性をすべて引き受ける覚悟が必要である。
 そして、先人から伝わるものを全て次に渡すという覚悟もある。

NPO法人白神自然学校一ツ森校

最初の頃の自然学校と地域の関係

体験を通じて学ぶ

野外教育
 冒険教育
 環境教育
 (ベース)

青少年・大人の教育の場
 (白神自然学校)

自然学校が考える地域資源を生かした取り組みと地域の人が見ている「地域という場」の考え方が異なっていた。

地域に根差した環境教育を考えると「共通の価値観の場が必要」

- ・自然や環境にこだわった飲食や宿泊業が必要
- ・自然ガイドの観光業に、青少年への野外活動を入れる
- ・休耕田での落葉広葉樹の苗床づくり
- ・遊々の森を使った林業体験
- ・青池コース (またぎコース) 森林セラピーコース……その後アロママッサージを体験
- ・植林事業……地ごしらえ間伐材の活用
- ・間伐材を利用したバイオマス事業展開……森林資源を活用したベレット・加工所 (森からエネルギー) 事業
- ・農家民泊9軒～12軒

白神の香りプロジェクト全体図

白神の香りブレンド品2種類
ぐらいいPATCHフラワーレメディ・織田雷野さん担当

商品化する時に、西川真知子先生からの農業研修付きマッサージを入れる1000円ぐらい

販売は、白神自然学校と、HPのみと、東京の西川先生の日本ナチュラルヒーリングセンターのみとする

織田雷野さんは、自然学校でアロママッサージを行うと共に、アロママッサージの人材の育成事業も行う

白神体操・白神ヨガで首都圏の参加者の心のケアを持統する西川先生の選考

白神のエッセンスを使った間伐材を使ったロールケーキ&バームクーヘンにも、白神の香りを使う

白神オリジナルオイルの製造

クロモジの栽培・100本苗木を秋に熟ヶ岳苗床ビニールで栽培(成田さん)

クロモジづくり(地元婦人会)
・農家レストランの水に入れる
・お茶として提供する

農家レストランでしらかみで使用

カツラ・ホトノ木・ツグの木の産葉技術センターへ持ち込んでのエッセンシャルオイルの抽出を依頼する

キャッチコピー「白神物語」・・・白神タッチ

西川真知子先生は、総合プロデューサー
山際社長は、創作料理をプロデュースする
永井代表は、白神物語のストーリーをつくる

2013年白神山地の世界遺産20周年記念として、白神の森の癒しのイメージを響りを運して表現し、そこに物語性を持ち、各商品に反映する取り組みを「白神山地の香りプロジェクト事業」という。この事業は新しい白神山地の魅力を響りの発見を通して、白神山地の自然と、人間の側の自然を求める畏敬の念をつなげたものである。



2012年9月第一回の津軽半島環境サミットの様子

第一回津軽半島サミットで来賓挨拶する佐々木青森県副知事・五所川原平山市長・岩坂泰信滋賀県立大学

津軽半島サミットのシンポジウムの風景とパネルディスカッションと調査の為の野外視察の風景

津軽半島環境研究センターの構成

河川の流域・暮らし文化研究
(小水力発電)

大気・黄砂・降水量観測研究

半島人材輩出所

自然再生エネルギー調査・研究

地域の河川の活性化・若木川の河川の文化、自然との関連付けを見つけていく

①大気・風力・黄砂・降水量観測研究・・・自然循環型の再生エネルギーに転換できる半島としての独立した再生モデルを目指す

②半島内でのエネルギーの自給をめざし、自然再生エネルギー基地を目指す

③独立共和国



ロゴマーク

津軽環境半島研究センター

ですが、Tsugaru Peninsula Environmental Research Centerと直訳しますが、直訳せずに、Tsugaru Peninsula Environmental Center TPEC（ティーペック）といよいよ少し簡単したいと考えますがいかがでしょうか。

津軽半島環境研究センターについて補足資料

人材輩出

青森中央学院大学のセミナーハウスとしても展開していきたいと考えている。また、全国の大学との連携で、できれば半島の持っている山・川・海という里山・里海を利用した半島の自然を五感で、感じて、感性を磨く実習授業を展開していければと考える。できれば単位を取得するコースができればともよい。半島の自然は、本物の自然に触れる場であり、日本の原風景にふれる場でもある。

津軽半島環境大学

大学生
一般オープンカ
レッジ

半島の中にある体験型プログラム(実習)コース 半島の授業

- ①環境
 - ②農・漁業
 - ③林業
 - ④食
- ①森林体験コース(林業・エネルギー体験)
 - ②農・漁業体験コース(水稲・果実・畜産体験)
 - ③里山・里海の体験コース(山・川・海の里の文化探検)
 - ④景観体験コース(草花・植物・歴史を学ぶ)

ナライ: 大学が必要としている実習・講義を行い、修了者は、半島体験プログラムの具体的な受け入れ(案)をレポートとして提出する事とする。その際に、その実習が自然環境と産業の共存も提案したものと望ましいと考える。

津軽半島環境研究センター



降水量を採取する器械

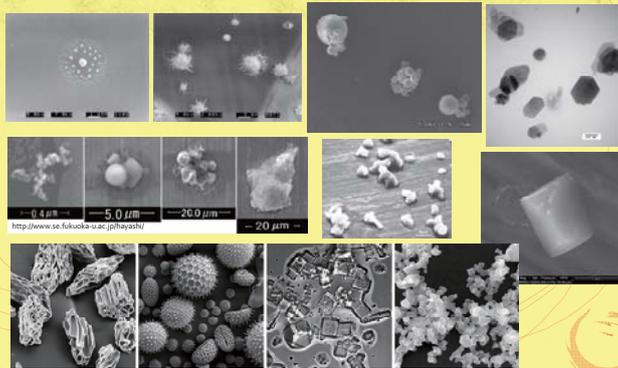


9月から改修工事を行う予定の旧松ノ木小学校



大気エアロゾルとは？

- 空気中の目に見えない大きさの微粒子



東アジアの大気エアロゾル

- 霞（かすみ）＝霧（きり） 霏（もや） 煙霧



浮遊粒子状物質（PM₁₀）の健康被害：
世界の主要都市における年間死者数
130万人以上（WHO試算）

健康に深刻な影響を及ぼす大気汚染の原因

海外の学生等も種拾い参加



国内初のブナの缶詰と種の採取とコンテナ苗づくりの行程



種拾いよのしかけ



種拾いは一般ずつ



コンテナで芽吹き



種植え作業



缶詰で保存



ブナは5年に一回しか種をつけないので、冷蔵保存して、毎年発芽させています

ブナの種の缶詰づくり（11月）





ご清聴ありがとうございました